



▲市議会HP



▲録画配信



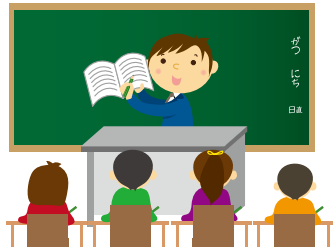
中川幸廣 議員 (白和)

チーム担任制を

答弁…メリットを整理し、慎重に検討していく

問 担任が一人より、児童・生徒にとって複数の担任の方が性格や相性からしてメリットがあると思う。不登校児童・生徒の対処の一つとしても複数の担任の方が良いと思うがいかがか。

答 複数の職員が協力して不登校児童生徒を支援することにつながるメリットはあるが、教員が一人の児童生徒に継続して関わる事ができなくなることから、児童生徒との信頼関係を築きづらいという懸念もある。導入の効果について慎重に検討していく。



子供 さらなるこども施策を

答弁…こども施策を総合的に推進していく

問 次世代育成支援対策の推進・強化として育児・介護休業法及び次世代育成支援対策推進法が改正され、法の有効期限が17年3月31日まで再延長された。

この法律と白岡市こども計画との関連、さらに、その内容の市民への周知とメリットについて伺う。

答 本計画は次世代育成支援対策を含め、子育て支援の取組やこども・若者育成支援等をまとめた計画である。市ホームページ等で周知し、こども施策を総合的に推進することにより、こどもを産み育てやすく、こども・若者が健全に成長できる環境づくりを目指す。



斎藤信治 議員 (WAKABA)

農業振興地域整備計画を問う

答弁…関係機関と連携して担い手を支援する

問 "米がない"、生命に直結する農業を未来につなぐために見直すべきではないか。①耕作放棄地の防止対策はできているのか。②集落営農組織の法人化は進んだのか。③集落内の農地を丸ごと借り受ける「地域まるっと中間管理方式」を検討してみないか。

答 ①農業委員等と連携を図りながら離農したかたの農地を担い手に貸付している。②集落営農組織の構成員が減少しており法人化は難しい状況である。③他の先進的な取組を参考にしながら、意欲ある担い手に農地の集積を進めていくうえで必要な支援を行っていく。耕作放棄地再生事業(前・後)



福祉 こどもの貧困解消に向けて

答弁…早期発見と教育・福祉の連携を図る

問 こどもの貧困は、家族の困難でもあり、家族丸ごと支援が必要である。そのため多くの部署の連携が必要となる。どう対応するのか。また、こどもを支援する民間の団体等への支援が求められている。食品を融通し合えるなど、情報共有の仕組みを作れないか。

答 こどもの貧困解消には、貧困にあるこどもの早期発見が重要であり、教育部門と福祉部門の連携をより一層強化し、支援体制の充実を図っていく。また、民間団体等の支援品の情報共有については、県の「こども応援ネットワーク埼玉」を案内し、活動を支援する。